

研究分野		授業科目名				科目責任者	
生化学系分野		医科分子生物学特論Ⅰ・Ⅲ				栗林 太	
開講年次		共通／専攻／選択		単位数			
1,2,3,4		特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択		特論Ⅰ：4(2/年), 特論Ⅲ：1/年			
目的							
(1) 医療への応用力を高めるために、分子生物学的な考え方や手技を獲得する。 (2) 遺伝子診断法を習得するため、分子生物学を理解する。 (3) ゲノム変異と修復機構を理解して、遺伝子解析を遂行できる能力を修得する。 (4) 遺伝子治療の基本を理解するために、先天性免疫不全症の全般を考察する。							
授業到達目標							
(1) tRNA や siRNA を具体的に説明できる。 (2) 正常と患者由来組織からゲノムを抽出し遺伝子解析を実施する。 (3) 遺伝子異常に対する修復機構の具体例を3つ以上説明できる。							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	隔週	金	17:00-18:30	岡本 秀一郎	講義	[抄読会]	生化学の英文論文を紹介し、それに対する考察・討議を展開する。 [場所:本館棟6階カンファレンス室12]
2	隔週	金	17:00-18:30	山内 明	講義	[抄読会]	免疫学の英文論文を紹介し、それに対する考察・討議を展開する。 [場所:本館棟6階カンファレンス室12]
評価方法							
<b>【特論Ⅰ】</b> (1) 1年間※で、講義は30時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 <b>【特論Ⅲ】</b> (1) 1年間※で、講義は15時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 ただし、特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものと異なる論文(症例)であること。 特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。 ※1～3年生は2月末まで、4年生は11月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。33頁：単位履修方法参照。							
課題(レポート等)に対するフィードバック							
(1) 毎月、提出課題(レポート)に関するフィードバック講義と討論を行う。 (2) 2月には全てのレポートの振り返り講義と総括を行う。レポートは返却する。							
教科書							
ISBN-9784524226825, Essential 細胞生物学, Bruce Alberts [ほか] 著; 青山聖子 [ほか] 訳, 南江堂, 2021							
参考書							
ISBN-9784621308523, イラストレイテッド生化学, Emine Ercikan Abali [ほか著]; 石崎泰樹 [ほか訳], 丸善出版, 2023							
準備学習(予習・復習等)							
(1) あらかじめ直接の紹介論文を1時間、更には関係諸論文を各自検索調査を行い、それらも1時間以上読んでから講義に参加すること。 (2) 講義中に出てくる疑問点を中心に、1時間程度の復習をしてください。 (3) 予習と復習の有無を講義中に確認します。具体的には、各自の課題発見能力を自学自修により高めることが必要です。							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
この授業科目では、実験生物学における問題の発見能力と解決方法を学びます。その能力は学位認定のために必要です。							
注意事項・メッセージ							
(1) 大きな日程変更はありませんが、担当者や日程が変更する可能性があります。 (2) 学生の論文紹介に関して、希望があれば発表前に個別指導を行います。							